

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	02	01	01	0404	非核平和推進事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-3	生涯学習の推進			
	施策	2	青少年の社会教育			
目的	非核平和に対する意識の向上を図るため、平和の尊さを感じる機会として非核平和推進事業を行う。					
対象	市内小学校の児童及び中学校の生徒					
意図	平和の尊さを感じ、非核平和に向けた意識の育成を図る。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<p>○非核平和学習会の開催 8月4日から6日までの3日間、小学生児童を被爆地広島市に派遣し、戦争の恐ろしさを自らの目や肌で感じる機会として非核平和学習会を開催した。</p> <p>○非核平和学習会感想文集の発行 非核平和の普及啓発として非核平和学習会に参加した児童の感想文集を発行し、市内小学校5年生及び6年生児童に配付した。</p> <p>○平和教室の開催 非核平和に対する意識の育成のため、小学校及び中学校において、非核平和講話等の平和教室を開催した。</p>						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	非核平和学習会の参加児童	人	計画	9	9	
			実績	9	9	
②	平和教室の開催回数	回	計画	5	5	
			実績	2	1	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	非核平和学習会に参加して「勉強になった」と感じた児童の割合	%	目標	100.0	100.0	
			実績	100.0	100.0	
②	平和教室に参加して「勉強になった」と感じた児童及び生徒の割合	%	目標	80.0	100.0	
			実績	98.0	100.0	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	○	目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
非核平和学習会及び平和教室に参加した児童にアンケート調査を実施。児童・生徒の非核平和への意識は高く、参加した全ての児童・生徒が「勉強になった」と感じている。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市が平成18年3月に宣言した「非核平和都市」を推進するものであり、民間等で類似する事例もないことから、市での実施が妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	参加した全ての児童・生徒が勉強になったと感じているが、今後は、平和教室の開催についての周知を強化し、より多くの学校で開催することで成果の向上が見込める。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の事業費であり、削減は難しい。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある	
	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	非核平和学習会、平和教室ともに、学校を通じて公平に周知し、参加者、参加校を募集している。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある	
	<input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
被爆地広島市への訪問や被爆体験者による講話などを通して、戦争の悲惨さや原子爆弾の恐ろしさを自らの目や肌で感じる事ができ、非核平和の尊さを後世に伝えていく子供たちの育成に繋がった。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 総合政策部 課名 総務課 担当係長 蟹澤一憲 内線 219

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	01	0404	非核平和推進事業

単位：千円

	26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費	989	960		△ 29
財源内訳	国・県			
	地方債			
	その他			
	一般財源	989	960	△ 29

事業期間	<input checked="" type="radio"/> 単年度繰返	<input type="radio"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	--	----------------------------	-----------------

部重点施策における目標

事業開始の背景・経緯
非核平和都市宣言を平成18年3月に議決し、その考え方を普及するため、非核平和学習会等の事業を展開している。

事業概要
○非核平和学習会の開催
8月4日から6日までの3日間、小学生児童を被爆地広島市に派遣し、戦争の恐ろしさを自らの目や肌で感じる機会として非核平和学習会を開催した。
○非核平和学習会感想文集の発行
非核平和の普及啓発として非核平和学習会に参加した児童の感想文集を発行し、市内小学校5年生及び6年生児童に配付した。
○平和教室の開催
非核平和に対する意識の育成のため、小学校及び中学校において、非核平和講話等の平和教室を開催した。

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
事業の実施にあたっては、小学校や中学校の協力が必要不可欠であることから、校長会議での説明など、協力関係を築く必要がある。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

